清流

発行日　2011年(平成23年)5月19日
発行者　駅家中学校ＰＴＡ　広報部
1号

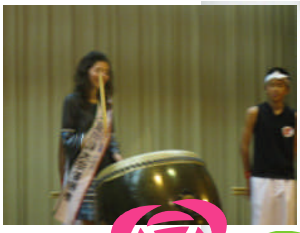
カラー版は本校ホームページに掲載中

ブルガリア・バラの女王来校！

交流会の流れ

1　学校長歓迎の言葉
2　福山ブルガリア協会団長挨拶
3　マリアさん，ミレナさん挨拶
4　生徒歓迎の言葉
5　歓迎セレモニー
　・吹奏楽部演奏
　　「日本の情景」
　・服部・蛇円太鼓
　　「春のいぶき」
　・校歌斉唱
6　生徒質問・交流
7　バラの記念植樹

山陽新聞（５月１４日掲載）



福山ばら祭きょう開幕

ブルガリア「女王」駅家中生と交流

太鼓演奏や苗植樹

14、15日に福山市中心部で開かれる福山ばら祭（福山祭実行委員会主催）を前に、パレードに参加するブルガリア・カザンラク市の「バラの女王」ミレナ・ジェリャスコヴァさん(20)らが13日、同市駅家町法成寺の駅家中を訪問し、生徒たちと交流した。

ミレナさんはブルガリアの日本語弁論大会の優勝者ロヴァンスカ・マリア・リュボミさん(21)ら同国の国立大生、同国の舞踊団員の計5人。駅家中の生徒たちと交流するバラの女王・ミレナさん（右）

カザンラク市は香水原料に使うバラの産地として知られ、「バラの女王」が福山ブルガリア協会の招きで毎年、福山ばら祭に参加している。

セレモニーには全校生徒383人が参加。生徒会の代表が「駅家町には古墳が多く、登下校のときに声を掛けてくれる優しい人ばかり」と、英語と日本語で学校について紹介。2人に花束が贈られた。

地元の伝統芸能「蛇円太鼓」を生徒有志が演奏し、2人もばちを握った。マリアさんは日本語でスピーチも披露した。この後、2人は生徒とともに庭にバラの苗3本を植樹した。

生徒会長の岡崎侑紀さん(14＝3年＝は「太鼓を一緒に体験して日本の伝統文化を楽しんでもらえたと思う」。ミレナさんは生徒の歓迎がうれしかった。バラを通して福山とブルガリアの関係を深めていきたい」と話していた。

【生徒の感想】

ブルガリアは，バラの国，福山市はバラの町ということで，１年に１回の交流だそうだ。その中でわたしが思ったことは，二つある。

一つ目は，他の国のことをもっと知ろうということ。〈中略〉

二つ目は，国際交流は大切だということ。（後略）